



山形大学
Yamagata University



2019



Yamagata University

Annual Report

【2018事業年度 事業と財務に関するレポート】



ごあいさつ

山形大学は創設以来、国立大学として、また山形県の「知の拠点」として、地域・社会の課題に応えるべく着実に歩みを進めてまいりました。今年で創立70周年を迎え、これまで数多くの有為な学生を輩出できましたことは、地域の皆様をはじめ多くの方々のご支援の賜と深く感謝申し上げます。これからも学術・研究の中心として、地域に根ざし、日本、世界の発展に寄与できるよう教職員が一丸となって尽力してまいります。

さて、近年の大学を取り巻く環境は、グローバル化、少子高齢化の進展、AIやIoTがもたらす第4次産業革命など、目まぐるしく変化しております。また、学生が必要な知識や物事を考える手段にも変化が見られ、大学教育のあり方が転換期を迎えようとしています。

山形大学では、社会の多様な変化に対し柔軟かつ迅速に対応しながら、地域・社会に貢献できるよう、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を大学の使命として掲げ、学長のリーダーシップのもと、健全かつ大胆な大学経営を進めております。



山形大学長 小山 清人

現在、国からの運営費交付金等については年々減少傾向にあり、大学の努力による安定的な収入確保が求められています。そのため本学では、キャンパスの自立化による財務の健全化・効率化を図るとともに、それぞれのキャンパスが特徴、強みを活かし、収入の確保に努めております。

令和の時代を迎え、これからますます社会は変化していくことでしょう。必要なのは、その変化についていくのではなく、その先を予測した行動です。「これから必要とされる新しい大学教育・経営のあり方は何か」という問いを念頭に置き、積極的に大学改革に取り組んでいく所存です。

この「Annual Report」は、2018年度に実施した事業や財務状況を広く国民の皆様によりわかりやすくご理解いただけるように心がけて作成しております。山形大学を知っていただく機会となれば幸いです。これからも山形大学へのご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

CONTENTS

- 01 ● ごあいさつ
- 03 ● 山形大学の3つの使命・5つの基本理念
- 04 ● 全学事業報告
- 09 ● キャンパス トピックス
- 11 ● 学生生活環境の整備
- 12 ● 山形大学基金への寄附のご案内
- 13 ● ファイナンシャルハイライト
- 14 ● 財務データ

〈山形大学の3つの使命〉

次世代形成

地球的視野に立って、
本質的・多面的・長期的視点から
思索でき、行動できる人材を
輩出すること

地域創生

知の創造と地域に
根ざした教育改革を通して
地域の社会改革の
エンジンとなること

多文化共生

教育および研究の
更なる国際化を推進し、
人類社会の諸課題の解決と
多文化共生社会の
構築を担う

〈5つの基本理念〉

山形大学は「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、
教育・研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、
地域変革のエンジンとしてキラリと光る存在感のある大学を目指しています。

- 1 学生教育を中心とする大学創り
- 2 豊かな人間性と高い専門性の育成
- 3 「知」の創造
- 4 地域創生及び国際社会との連携
- 5 不断の自己改革

教育

基盤力テストにおいて、学生の文章理解・論述能力を測定するため、新たに語彙力テストを開発し、2019年度から本格的に実施しています。

神奈川大学と本学では、双方の強みを活かした教育・研究を推進するため、人材育成と地域発展を目的とした包括的連携協定を2019年4月に締結しました。フィールドワークやインターンシップの相互受け入れを行い、学生の多様な価値観を涵養し、次世代を担う若者の育成を目指しています。

本学における大学院教育プログラムを研究科横断的に統括する組織である大学院基盤教育機構を設立しました。本機構の設立により、「深化した専門知識と技能及び新領域開拓力」「高度専門職従事者としての高度人間力」「多文化理解力」を育成し、社会の持続的発展を牽引できる総合的推進力を持つ人材を養成する体制が整備されました。

学生支援

山形大学独自の奨学金として、優秀な学生に対し「YU Do Best 奨学金」を支給しており、毎年10人程度が奨学生として採用されています。また、課外活動や学会での研究成果発表等で優れた業績を修めた学生に対しては「学生表彰」によりその成績を顕彰することで、本人だけでなく他の学生のモチベーションも高め、好影響を与えています。2018年度は13個人、2団体が受賞しました。

学生が心身の健康を保持し充実した大学生活を過ごすために、「ストレス社会の生き方」に関する授業を行い、1年生約1,100人の学生が受講しました。

また、学生の現況把握のためのアンケート調査、アドバイザー教員の学生面談を実施し、きめ細かなサポートをしています。

山形大学独自の奨学金

YU Do Best 奨学金

優秀な学生に、存分に勉学に励み、そして安心して生活できる教育・研究環境を提供するため、選考により奨学金を支給します。

月額	サポート期間・対象	人数
30,000円	2年間・学部3年生、4年生 (医学部医学科は5年生、6年生)	10人程度

山形大学山澤進奨学金

株式会社ヤマザワ前代表取締役会長・山澤進様から、山形大学の発展と地域振興のために役立ててほしいと寄せられた奨学金を基に創設した奨学資金です。学業が優秀かつ経済的理由により山形大学への進学が困難な方で、卒業後、山形県の地域振興に貢献してくださる方を、選考により奨学生として採用します。

月額	サポート期間	人数
50,000円	4年間 (医学部医学科は6年間)	最大6人

※入学科及び授業料を免除。

山形大学エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金

最上地区新庄市で「土田医院」を開業されている土田秀也様から、最上地区の高等学校等出身者のための奨学金設立の申し出をいただき、「山形大学エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金」を設立しました。学業が優秀かつ経済的理由により山形大学への進学が困難な方で、山形県最上地区の発展に強い意欲を有する、最上地区の高等学校等を卒業または卒業見込みの方を、選考により奨学生として採用します。

月額	サポート期間	人数
40,000円	4年間 (医学部医学科は6年間)	1人

※入学科及び授業料を免除。

山形大学修学支援事業学生支援奨学金

経済的理由により、一時的に授業料等の支払いが困難になった学生に対し、申請により、30万円を上限として、貸出しを行う奨学金制度があります。

詳しくは本学ホームページでご確認ください

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/fee/scholarship/>



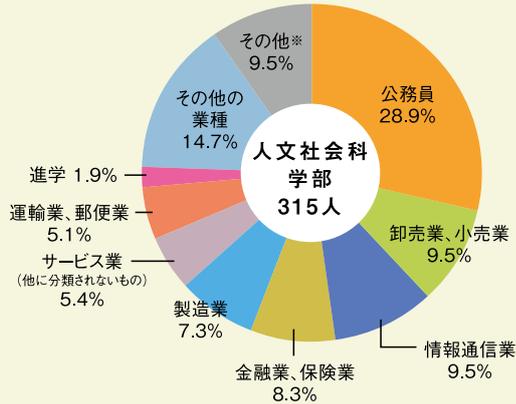


学生支援

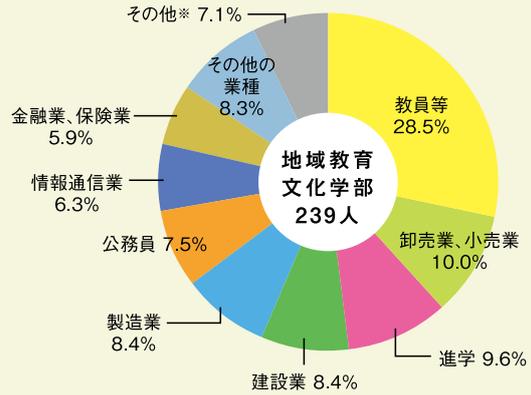
2018年度 進路状況

学部就職率99.9%を維持しています

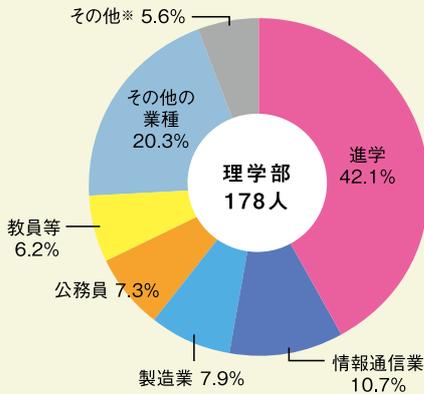
■人文学部(現 人文社会科学部)



■地域教育文化学部

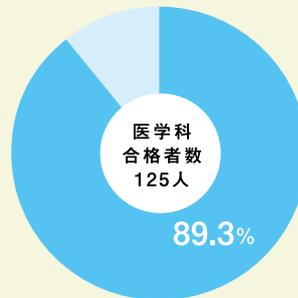


■理学部

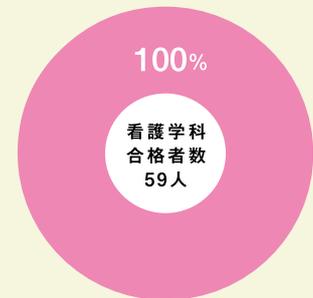


■医学部

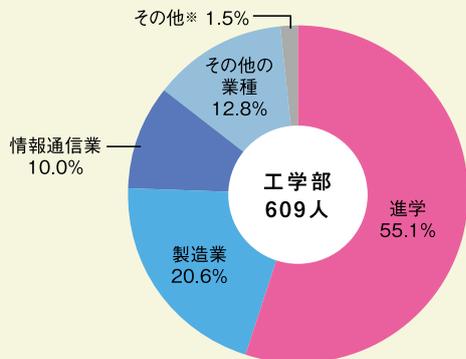
医師国家試験合格率



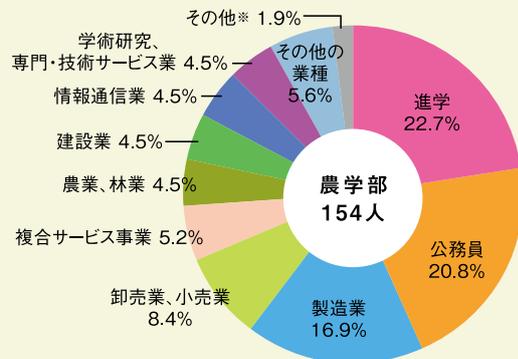
看護師国家試験合格率



■工学部



■農学部



※その他…海外研修、留学、資格試験再受験等

主な就職先など、詳しくは本学ホームページでご確認ください

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/employment/infromation/situation/>



卒業生の活躍の
様子はコチラ

山大に在りてはつとむるウェブマガジン
ひととひと



国際交流

本学の特徴的な学生派遣の取り組みとして、本学の海外拠点（ベトナム、インドネシア、ラトビア、中国、モンゴル、ケニア、ペルー）に学生大使として学生を2週間から1ヶ月程度派遣し、現地の学生に日本語を教えるプログラムを2012年度から実施しています。これまでに延べ419人派遣しており、2018年度は2017年度の59人を上回る105人を派遣しました。

このプログラムは、学生が派遣先に応じた渡航経費の支援や現地教職員のサポートを受けられること等から、留学への一歩を踏み出せない学生にも参加しやすいものとなっており、長期の留学に踏み出すきっかけにもなっています。

また、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムでは、これまでに全国コースに18人、地域人材コースに14人（うち本学学生12人）の学生が採用されています。

さらに、短期派遣留学制度では2017年度の22人を上回る32人の学生を派遣したほか、同制度を支える大学間交流協定も新たに2件締結したことで、留学を希望する学生の選択肢を増やすことができました。



ラトビアでの学生大使授業風景

短期交換留学が可能な海外協定校(大学間学術交流協定)



【アメリカ】

- オクラホマ大学
- コロラド州立大学
- テキサス大学アーリントン校
- ハワイ大学コミュニティカレッジ
- プレスビテリアンカレッジ

【アルメニア】

- ロシア=アルメニア(スラヴ)大学

【イギリス】

- マンチェスター大学人文科学学部
- ヨーク・セントジョン大学

【イタリア】

- バルマ大学
- トリノ大学

【インドネシア】

- ガジャマダ大学
- モハマディアン大学
- バジャラン大学

【エストニア】

- タリン大学

【オランダ】

- ライデン大学
- ハーグ応用科学大学

【カナダ】

- モントリオール大学

【韓国】

- 仁済大学校
- 済州大学
- 全南大学校
- 大邱大学校
- 漢陽大学校
- 世宗大学

【ケニア】

- ジャモケニヤッタ農工大学

【スペイン】

- サラマンカ大学
- レイダ大学

【タイ】

- コンケン大学
- スラナリー工科大学
- チェンマイ大学

- モンクット王ラカバン工科大学

- ラジャマンガラ工科大学タニャブリ校

- 泰日工業大学

- プリンスオブソクラ大学

【台湾】

- 銘傳大学
- 台湾師範大学

- 中山大学
- 輔仁大学

- 文藻外語大学
- 国立中興大学

- 国立台湾科技大学

【中国】

- 延辺大学
- 河南師範大学

- 吉林大学
- 黒竜江一農墾大学

- 上海工程技術大学

- 大連理工大学

- 東北電力大学
- 青島農業大学

- 哈爾濱工業大学
- 福建師範大学

- 北京林業大学
- 山西師範大学

- 広西師範大学

【チリ】

- タルカ大学

【ドイツ】

- ライプニッツ・ハノーヴァー大学

【パキスタン】

- コムサツツ情報科学大学

【フィリピン】

- サン・カルロス大学

- シリマン大学
- エンデルラン大学

【フランス】

- アンジェ大学

【ブルネイ】

- ブルネイダルサラーム大学

【ベトナム】

- ベトナム国家農業大学

- カントー大学

- ハノイ国家大学自然科学大学

- フェ大学

【ベナン】

- アボメカラビ大学

【ペルー】

- カトリカ大学

- サン・マルコス国立大学

- ペルー国立工科大学

- ラ・モリーナ国立農業大学

- サンイグナシオデロヨラ大学

【ボリビア】

- サンアンドレス大学

【マレーシア】

- マラヤ大学
- マレーシア工科大学

【モンゴル】

- 新モンゴル学園

- モンゴル人文大学

- モンゴル生命科学大学

【ラトビア】

- ラトビア大学

【リトアニア】

- ビリニュス大学

【ロシア】

- M.K.アモースフ記念北東連邦大学

- プリヤート国立大学

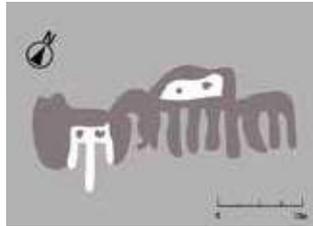
※2019年4月1日現在

研究 【各キャンパスの主な研究】

ナスカの地上絵

小白川キャンパス(人文社会科学部)

ナスカ研究所では地上絵調査のためにドローン及び人工知能を導入した、より効果的な調査を開始しました。



ガラス基板ベースの曲がる有機ELパネル

米沢キャンパス(工学部)

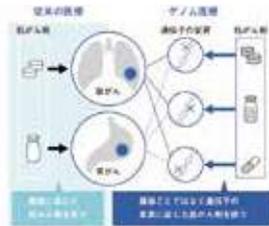
世界初・ケミカル研磨による曲がる有機ELパネル開発に成功。車載を始め、曲面で固定して取り付けるような用途に向け、安価で保存性が高いことから市場で目にする日も間近です。



ゲノム医療＝オーダーメイド医療

飯田キャンパス(医学部)

患者の遺伝子情報をデータベース化し、治療などに役立つ「山形バイオバンク」(患者から生体試料を集積する体制)を全国に先駆けて開始。ゲノム病院と地域コホート研究とを統合し、更なる研究の推進を図っています。



下水処理水を利用した高タンパク飼料用米栽培

鶴岡キャンパス(農学部)

下水処理水の連続灌漑によって高タンパクの飼料用米の栽培に実水田レベルで成功。下水処理水栽培米は安価な上に、タンパク含有率が高く、家畜の成長促進や肉質の向上が期待できます。



社会連携

2018年度は、本学の有する有機材料システムに関する技術や研究成果を更に発展させるため、民間企業との事業化へ向けた本格的な産学連携を推進するオープンイノベーション推進本部並びに研究成果の社会実装や事業化を推進する有機材料システム事業創出センターを設置し、基礎研究・応用研究から事業化まで、研究成果を一気通貫で社会へ還元する体制を構築しました。

これらの組織的な取組みの強化により、2018年度は研究予算1,000万円以上の大型研究プロジェクトを13件獲得し、目標の5件を大幅に上回りました。また、産業界等から要望に基づき実践する学術指導については、受入金額が1億7,100万円となり、昨年度から3,100万円伸長しました。

これらの活動は、研究成果の社会への還元のみならず、本学学生にとっても魅力ある研究環境の整備にもつながっています。

総務・広報(大学運営)

働き方改革の一環として、事務職員が柔軟な働き方を選択できるよう、勤務時間を変更できる制度を整備するとともに、テレワーク(在宅勤務)制度を導入しました。

また、事務の効率化を目的とした、YU-CWC(山形大学CoWorkers Club)を設置することにより、定型的な業務を適正に遂行できる体制を整えました。

広報においては、2018年度に制作した31本の動画を軸に情報発信を展開し、公式HPやブランドサイト「ひとつひとつ」、Youtubeチャンネル、公式SNS(Twitter、Facebook)、広報誌「みどり樹」といった複数メディアを戦略的に連携させ、通算動画再生回数は12万3,000回を達成しました。学長定例記者会見を中心としたプレスリリースは249件のうち、69%が報道され、本学の知名度UPにつながりました。

医療

医学部では、個人に最適な治療を提供することを目的とした「ゲノム医療」の確立に向けた取組みを推進しています。2018年6月にはゲノム医療に不可欠な「山形バイオバンク」を創設（厚生労働省から指定を受けた全国100ヶ所の「がんゲノム医療連携病院」の中で最初）し、順調に稼動しています。

新患者を対象として、一日平均26人にバイオバンクの趣旨を説明し、月平均400人（75%）から同意を得て、検体を保存しています。現在、一部の疾患ではゲノム情報に基づいた診療が実施されています。

今後、一度に複数の遺伝子変化を調べることのできる「遺伝子パネル検査」による医療を独自で実施できる体制の整備を目指します。



専用ブースでは、常駐する看護師が山形バイオバンクの趣旨・目的等を患者さんに説明

総合的学学生支援（EM）と大学機関研究（IR）

総合的学学生支援（EM※）

本学では、地域の大学への関心を高めていただくために、林修氏（東進ハイスクール 東進衛星予備校 現代文講師）による特別講演会を開催し、約1,100人の中学生・高校生と保護者の方に参加いただきました。

また、中学生の段階から大学進学への意識を高めていただくためにジュニアキャンパスを開催し、約80人の中学生の方に参加いただきました。高校生向けには、少人数での密度の濃いカリキュラムを体感できるアカデミックキャンプを開催し、約35人の高校生に参加いただきました。

さらに、本学の特色や入試方法を理解いただくために、高校教員対象説明会を9県13会場にて開催するとともに、入試広報担当教員が全国の高校を550校訪問し、進路担当教員との面談を積極的に実施しました。



ジュニアキャンパス2018

※EM (Enrollment Management: エンロールメント・マネジメント)

大学調査によって支えられ、戦略的なプランニングによって組織され、学生の大学選択、大学入学、在学中の教育サービス、休学・退学の減少、(卒業後も含めた)学生の将来などに関わる支援諸活動を総合的にマネジメントすること。

大学機関研究（IR※）

これまで蓄積された学生に関する情報及び研究活動に関する情報に加え、学外データを活用し、大学間比較を可能とする学内向けのシステムを導入し、学内にファクトブックとして閲覧できるようにしました。

本学の教育、研究、社会貢献等に関する実態把握につながるレポートを11件作成したほか、次世代形成・評価開発機構のIR部門に導入したアンケートシステムを活用し、新たに2件のアンケート（企業アンケートは40社、授業改善アンケートは受講者数1,449人のうち回答者数1,143人）の作成及び分析を実施しました。

これらの取組のうち、入学者動向や本学独自に開発・実施している基盤力テスト等の特徴的な分析結果については、学内報「ぱれっと」に毎号「IR Tips」として掲載し、学内共有を促進しています。

※IR (Institutional Research: インスティテューショナル・リサーチ)

意思決定支援を目的とした山形大学に関する調査及び山形大学データの収集・蓄積・分析。学内に点在する諸データを集め、統合、分析し、可視化することで、効果のある改善策立案に寄与し、施策実施後の評価・検証等を行うことで、戦略的意思決定を支援すること。

小白川キャンパス

◇人文社会科学部 ◇地域教育文化学部 ◇理学部

小白川キャンパスでは、「学問基盤力、実践・地域基盤力、国際基盤力」を育成する3年一貫の学士課程基盤教育のほか、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部の学部・大学院教育、また社会人向けの教育プログラムなどが行われており、様々な目的で学びを求める方々を受入れ、育成する基盤を整備しています。また、3つの学部が協力し合い、「明るく楽しいキャンパス」を目指し、授業改善や講義室の改修、学生との懇談会を開催するなどの取り組みを行っています。

また、2018年度は、小白川キャンパスにおいて、11月17日に全国の大学では3校目となる、秋の年次公開検証（「秋のレビュー」）が開催され、行政改革担当大臣、外部有識者による各府省の行政改革の取組に関する検証が公開の場で行われました。

本レビューの開催にあたり、告知ポスター、チラシのデザインを地域教育文化学部の学生が担当しました。当日は、計95人の一般市民や学生の参加があり、国の政策とその評価を身近に感じ、考える機会になったといった声が寄せられました。



「秋のレビュー」告知ポスター



秋のレビュー



学生との懇談会

飯田キャンパス

◇医学部

飯田キャンパスの附属病院では、診療の場としてだけでなく、訪れる様々な方が利用しやすい病院づくりを目指しています。

2018年度は、病院1階にある花屋、理容室、美容室、コンビニ、カフェ、レストランのあるスペースを1つの街としてイメージし、患者さんはもちろん、お見舞いにくる家族や友達がゆっくりと過ごせる空間として、病院内をほんの少し明るく、そしてほっとできる「YUMe TOWN」を整備しました。

また、現在、飯田キャンパスの東日本重粒子センターでは、多くの皆様よりいただいております寄附金、文部科学省からの補助金などを原資として世界最先端の「重粒子線がん治療装置」の整備を進めており、2020年8月の診療開始を目指しています。



病院1階のYUMeTOWN



東日本重粒子センター外観

米沢キャンパス

◇工学部

米沢キャンパスでは、外部資金（民間企業等との共同研究費や、各省庁、県市町村等から交付される補助金など）を原資とした大型プロジェクトが盛んに実施されており、世界的な研究拠点の整備が進んでいます。また、その最先端の環境を活かし、実践力を育む教育活動を展開しており、次世代の新たな価値を創造する有為な人材の輩出を目指しています。

また、最先端の研究開発、実践的な教育研究及び基礎研究の展開のみならず、地域に根ざした活動にも積極的に取り組んでおります。

2018年度も、市町村や地元企業と連携し、「科学フェスティバル in よねざわ2018」を開催しました。2日間で約2,000人の来場者があり、子供たちに五感を使って科学の不思議や楽しさを体験してもらうことができました。2018年度で11回目を迎える本フェスティバルは、置賜地区の夏の一大イベントとして定着しています。



有機材料システム事業創出センター外観



「科学フェスティバル in よねざわ2018」

鶴岡キャンパス

◇農学部

鶴岡キャンパスでは、地域の特色を最大限に活かしたフィールドワークと実験を重視した教育研究を行うとともに、地域の皆様に多様な体験・学習の機会を提供しています。

2018年度も、「農場フェスティバル」（農場産米の試食やツリークライミング体験等）や子供たちを対象とした「森の学校」（花や木の実、動物の観察や積雪観察等）、「市民交流農園」（学部内の農園を開放し、農業を通じ交流を図る）を実施しました。

また、民間企業からの寄附金による大型の寄附講座が設置されており、産業界と連携した取り組みを行っています。耕畜連携による食料自給実証の一環で開発・製造したハム・ソーセージ等の加工品及び味噌の販売を通じ、安定的な収入を確保するとともに、山形大学ブランドの発信を図ります。



農場フェスティバル
（ツリークライミング体験）



市民交流農園
（子どもたちがジャガイモを植えている様子）



森の学校
（演習林の川で水遊び）



「山形大学ブランド」の
畜肉加工品

◆ 学生生活環境の整備

米沢キャンパス(工学部)学生寮「白楊寮」が新設されました



A 新白楊寮の外観 B 学生居室 C コミュニティスペース D 明るく広い食堂

POINT 1

全室にユニットバス・ミニキッチンを完備した完全個室が250室

POINT 2

管理人常駐、各棟玄関に専用のセキュリティカード錠、各居室にインターフォン完備で安全性にも配慮

POINT 3

栄養士が健康管理・栄養管理に配慮した朝・夕の食事提供
(希望者のみ。食費は自己負担)

■ 寄宿料(月額) / 27,000円 ※食費・光熱水費は別途。

◆ 山形大学基金への寄附のご案内

山形大学基金は、本学における「学生支援」及び「教育研究支援等」に資することを目的に創設しました。

経済的修学困難学生へのご支援

経済的な理由で修学に困難がある学生等に対して支援を行うことにより、意欲と能力のある学生が希望する教育を受けられるよう支援することを目的としています。具体的には、次のように活用されます。

- 入学料、授業料または寄宿料の全部または一部免除
- 修学資金の貸与または給付
- 学生の海外への留学に係る費用負担 等

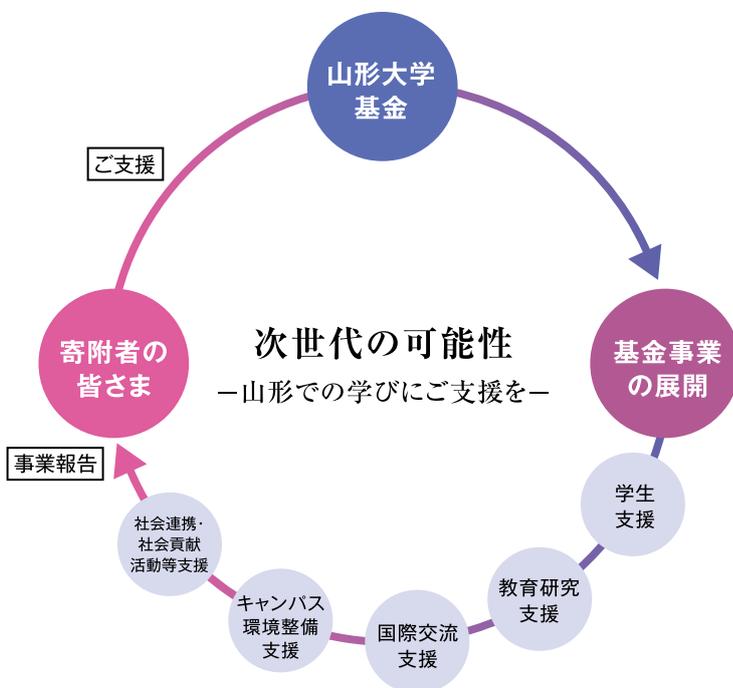
大学公認学生サークルへのご支援

小白川、飯田、米沢、鶴岡の各キャンパスにある各「大学公認学生サークル」を個別に指定してご支援いただくことができます。

山形大学運営全般へのご支援

次の支援事業を柱としております。各詳細につきましては、年度毎に諸状況を勘案しながら計画します。

- **学生支援**
課外活動(団体、サークル等)、キャリア形成・就職、優秀学生への奨学金 等
- **教育研究支援**
基盤教育・専門教育、学術研究推進 等
- **国際交流支援**
海外留学、外国人留学生、海外大学との交流 等
- **キャンパス環境整備支援**
安全・安心・快適なキャンパス整備、バリアフリー対応 等
- **社会連携・社会貢献活動等支援**
卒業生等との交流、ボランティア活動、地域交流・貢献活動 等
- **その他基金の目的達成に必要な支援**



学部等へのご支援

学部等(所属する研究室を含む)を指定してご支援いただくことができます。

なお、本支援金の一部(30%)は全学事業に充当させていただくこととしております。予めご了承のほどお願いいたします。

税制上の優遇措置

山形大学基金への寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上の全額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されております。

また、経済的な理由で修学に困難がある学生等に対する支援にご寄附いただく場合には、「所得控除」制度に加え『税額控除』制度が適用になりました。詳しくは、下記ホームページよりご確認ください。

お問い合わせ

山形大学基金担当 TEL:023-628-4497 E-mail:yukikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
ホームページ: <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/>



◆ ファイナンシャルハイライト

(百万円)

	2017年度	2018年度	増減 (前年比)
貸借対照表			
資産	117,527	127,101	9,573
負債	46,207	56,528	10,321
純資産	71,320	70,572	△ 747

損益計算書			
	2017年度	2018年度	増減 (前年比)
費用	40,618	40,908	290
収益	42,425	42,015	△ 409
運営費交付金収益	11,201	10,849	△ 352
授業料等収益	5,084	5,135	50
附属病院収益	20,270	20,410	140
受託・寄附金等収益	2,921	2,823	△ 98
その他	2,947	2,797	△ 150
当期総利益	1,807	1,107	△ 699
(うち目的積立金予定額)	(999)	(702)	(△ 297)

注) 百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。

2018年度は、資産が95億円増加しています。これは、主に飯田キャンパスにおける重粒子線照射施設及び装置の工事が進捗したことによるものです。負債については103億円増加していますが、これは資産取得に伴い発生する資産見返負債(※)が大半を占めています。

また、2018年度における当期総利益は、11億円となっております。前期より減額となっておりますが、これは国からの交付金が減少したことが主な要因です。そうした中で、附属病院収益については、医療体制の強化を図ったことによる診療単価及び外来患者数の増加などの経営努力により、1.4億円増加しています。

なお、当期総利益のうち7億円については、文部科学省の承認後、目的積立金として2019年度以降の施設・環境整備事業等に充てられます。

今後も、教育・研究・診療に力を注ぎ、外部資金の獲得などによる自己収入の確保並びにより一層の経費抑制に努め、健全な財務運営を行ってまいります。

※「資産見返負債」

国立大学法人特有の会計処理で、固定資産取得額と同額を負債に計上するもの。毎年、減価償却を行うことで減少し、現金の増減を伴わない負債。

詳しくは「平成30(2018)事業年度財務諸表」をご確認ください

URL https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/



※「平成30(2018)事業年度財務諸表」は9月以降(8月末に文部科学大田承認予定のため)の掲載となります。

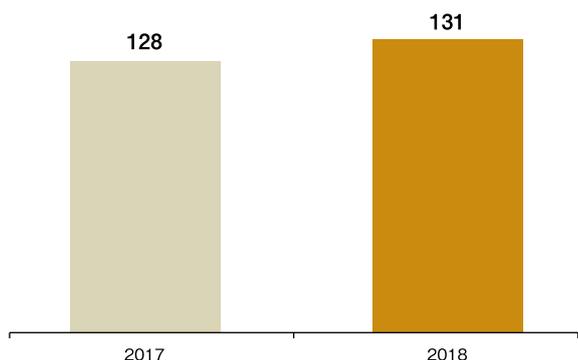
◆ 財務データ

教育関係経費

教育関係経費は、116億円です。学生1人当たりに換算すると131万円となります。人事院勧告に準拠した給与支給等により、教員人件費が増加し前年度より3万円増加しました。

学生1人当たりの教育関係経費※

(万円)



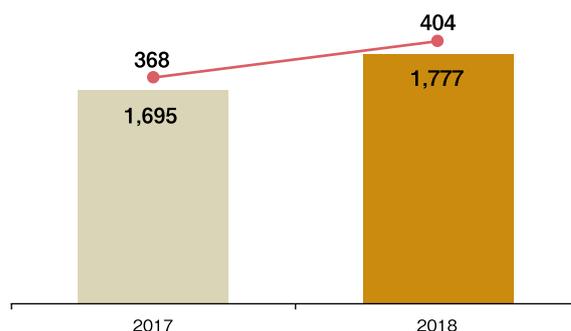
※ (教育経費+教育研究支援経費+教員人件費) / 学生数

山形大学基金

2018年度の寄附のお申し込み件数は404件で、1,777万円となり、2018年度末総保有額は1.9億円となっています。前年度を上回るご支援を賜り、感謝申し上げます。本学における学生支援及び教育研究活動等の充実を図っていきます。

山形大学基金(受入額)

■ 受入金額(万円) ● 受入件数(件)



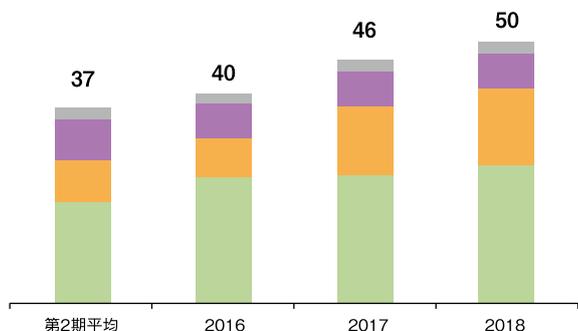
外部資金

2018年度の外部資金の収入実績額は、50億円です。これは国から交付される運営費交付金等が減少傾向にある状況において、教職員の努力により外部資金を獲得した成果です。今後も教育・研究活動に支障をきたすことがないよう、継続的な外部資金の獲得及び経費抑制に努めます。

外部資金(受入額)

■ 受託研究費等 ■ 補助金
■ 寄附金 ■ その他

(億円)

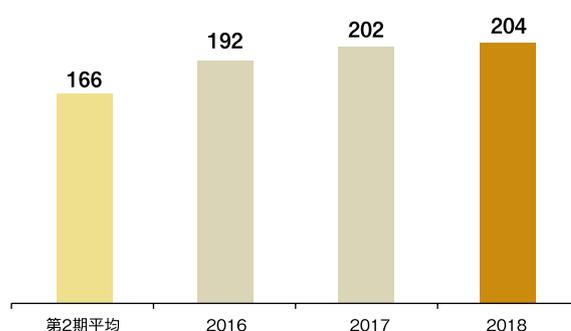


附属病院収益

附属病院収益は204億円で、前年度より増加しましたが、収益の増加に伴い、診療経費等も増加しており、附属病院の経営が厳しい状況にあります。引き続き附属病院の使命を果たすため、引き続き経営改善に努めます。

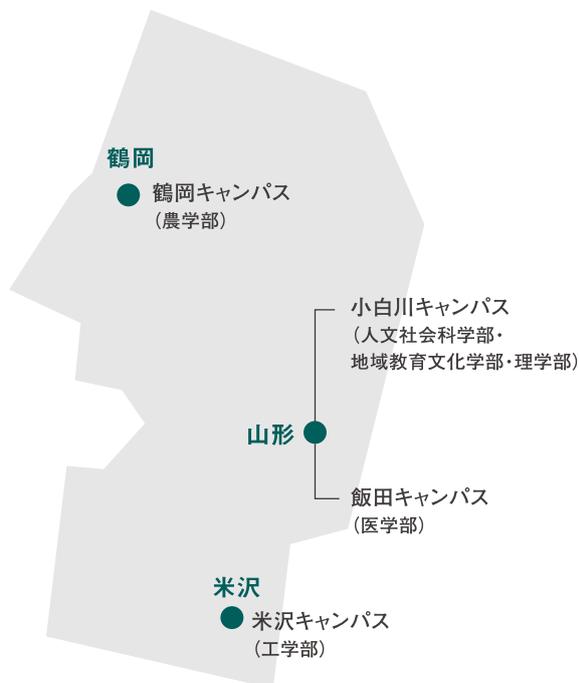
附属病院収益

(億円)



山形大学の1年間の運営にかかる国民一人当たりの負担額 109円

山形大学の国立大学法人等業務実施コスト 138億3,778万円 ÷ (人口) 1億2,643万人(「人口推計」(総務省統計局による2018.12 現在))



山形市へのアクセス

- 仙台から山形 / [電車] 約1時間15分
[高速バス] 約1時間 (約15分間隔で運行)
- 東京から山形 / [飛行機] 約1時間 [新幹線] 約2時間40分
- 大阪から山形 / [飛行機] 約1時間15分

山形市から各キャンパスへのアクセス

- 山形から米沢 / [新幹線] 約35分 [電車] 約45分
- 山形から鶴岡 / [高速バス] 約2時間



■ シンボルマークについて

山形大学のシンボルマークは、2001年に21世紀を迎え、本学の更なる発展を期し、学生と教職員の一体感を高めるに相応しいシンボルとして、公募により制定されました。教育学部4年(1998年度入学)千葉麻里子さんの作品を教育学部和田直人准教授(当時)が補作したものです。

アニュアルレポートに関するお問い合わせ窓口

国立大学法人 山形大学 財務部財務課

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4番12号

TEL:023-628-4052 FAX:023-628-4051

山形大学ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/>

